

リレーエッセー
大きくなあれ
Vol.30

五百円と百円と十円

帰依龍照



「突然ですが、五百円と百円と十円、どれが一番価値のあるお金ですか？」「自分がもらって一番うれしいのは、どの硬貨？」
私が講演会に講師として案内していただいた時のオープニングは、必ずこの質問から始めることに決めている。
「何でこんな簡単な質問するのかね？」
と参加者の反応はいまいち。しばらくすると、会場から見かねて「五百円！」と大きな声が聞こえてくる。
「次は？」
「百円！」
「最後は？」
会場全員が「十円！」
当然のこととおしかりを受けるかもしれないが、私たちの貨幣価値からすれば、この答えは正解である。しかし、時にはこの価値の順番が入れ替わることもあるかもしれない。
これは師匠からお聞きした話。ある街に三十代のご夫婦が住んでいた。結婚後しばらくして、玉のようなかわいい赤ちゃんを授

かった二人は、幸せそのものであった。男の子は両親の温かい思いやりで包まれて、何不自由なく育っていったが、その子が五歳になったある日、祖父母からのアドバイスもあり、ある施設を家族で訪れることにした。
「お父さん、お母さん、息子さんは少し言葉が遅いようですから、こちらの施設で何年か専門の教育を行いましょう」
あまりにも急な先生の助言に、ご両親は驚くばかり。全寮制のこの施設での専門の言語指導が、この日から始まった。本人の努力はもちろん、先生方や友達に囲まれ、男の子はみるみるうちに多くのことを学習していった。
一年後のある日、算数の時間、担任の先生が
「五百円、百円、十円、もらってうれしいのはどれかな？」
と問うと、クラス中が競って手を挙げる。
「五百円！ これってもらえるの？」
多くの子どもたちが答えるのに、男の子だけ
「先生、僕、十円」
不思議に思った先生が「五百円じゃないの？」と問いかけると、「だって、十円あれば大好きなお母さんの優しい声が聞けるもの」男の子は、毎晩八時になると公衆電話から自宅に電話していたそうである。
「お父さん、今日ね、足し算習ったよ」「お母さん、S君と大きな砂のお城を作ったよ。お母さん、大好き！」
事務所にあるピンクの公衆電話では、五百円も百円も使えない。
「十円が一番うれしい」
「そうか、十円ってスゴイね」

このコーナーは、日々子どもたちとかわる方のエッセーです。
〈執筆者〉
宮城英雅(小児科医)
平良辰浩(学童クラブ指導員)
下地直也(保育士)
真栄城栄子(くすぬち平和文化館)
○帰依龍照(住職)
新里恒彦(ケルン苑主管)

ご意見をはがきかファクス、Eメールで編集部までお寄せください

遊び場スケッチ ③ 浜川小学校・校庭 (北谷町)

オンヤペリは
嶺井美樹さん・大浜由梨さん
(浜川小学校四年生)

美樹さん
由梨さん

(由梨さん) 七歳の時から琉舞を週に二回習っている。踊っていてうれしいときは先生に褒められたときかな。黒島口説(クドゥチ)や谷茶前なんか踊るよ。はー？今踊ってみるわけ？ 嫌だ、みんなの前では恥ずかしいもん。
ゆうりの誕生日には家族みんなで北谷のりんけんバンドのお店でお祝いしたよ。歌も大好きだからティンクティンクみたいな歌手にもなりたいな。
(美樹さん) みーきは四歳から空手習っている。茶色帯だよ。こないだはお話大会があって、「空手と私」という演題で発表して最優秀賞とったよ。次は町大会に出場が決まっている。
三年生のときに、三線も習い始めたんだ。きっかけはお母さんにすすめられたっていうのもあるんだけど、おもしろそうだったし。三線で目標にしている人は、おじいちゃんのお祝いに来っていた人で、謝対に住んでるおじいちゃん。

嶺井美樹 大浜由梨